

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 中間評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立田代小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校評価の重点取組の成果指標達成のため、3つの指導部会を中心に全職員で具体的な取組を進めることができた。指導部会での検討は、会議内容の精選や時間短縮につながっている。職員分担の平準化、次年度への引継ぎにおいても効果的であったが、部長などの一部の職員に業務が偏らないよう今後も見直しをして改善を図っていく必要がある。前年度同様もしくは前年度より下回る評価もあるが、より高い目標を掲げた結果であったり、同様の評価でも取組においては前進していたり、成果目標はおおむね達成できたとする。 ・コロナ禍が一段落し、コミュニティスクールとして、地域の方とつくる活動にも制限なく取り組むことができるようになった。今年度は、どの学年においても学校職員だけでは実現できない教育活動を行うことができた。 ・達成度がB評価の項目については、職員で知恵を出し合いながらより高い成果が出せるように推進していきたい。
2 学校教育目標	「共に学び 心豊かに たくましく 生きる」児童の育成
3 本年度の重点目標	・主体的・対話的で深い学びへ向けた授業改善を図る。 ・思いやりの心や豊かな心を基盤とした学校づくりを行う。 ・特別支援教育において校内支援体制や個に応じた指導の充実を図る。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○個人の課題を設定して研修を行い、課題解決のために授業を改善することができた教師80%以上。 ○校内アンケートの「授業内容がわかった。」と答える児童80%以上。	・個人テーマの中間報告会や授業見学等を行い、授業力向上に努める。 ・全職員が「田代メソッド」等を参考に指導方法の改善・授業力の向上を図る。	A	・全職員が個人テーマを設定し、授業改善や指導力向上に努めている。中間発表などで意見交換を行い、今後の研修について、見直しをもつことができた。 ・「田代メソッド」等を参考に、分かりやすい授業になるように努めている。 ・校内アンケートの「授業内容がわかった。」と答える児童は90%以上だった。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●「道徳に関するアンケート「ほかほか言葉を使って友達と仲良くしていますか」の質問で、80%以上の児童が肯定的な回答をする。	・人権週間や道徳の授業実践において、児童が人としての生き方考えるきっかけとなる内容を盛り込む。 ・友だちのよいところや頑張りを見つける活動に取り組ませる。	A	・「ほかほか言葉を使って友達と仲良くしている」と回答した児童90%以上だった。 ・12月に人権週間を設定し、県が作成している教材を用いて全クラスが授業を行う計画している。 ・児童のよいところを教師が、クラス全体で紹介した。また、クラス内で頑張っている友達を紹介する活動に取り組む学級もあるので、今後、その活動を広めていきたい。	A	・「ほかほか言葉を使って友達と仲良くしている」と回答した項目で95%以上の児童が肯定的な回答をしていた。 ・11月に県が作成している教材を用いて、全クラスが授業を行った。人権週間に合わせて学習の学びをまとめたものを掲示することができた。友達の見つけの活動に取り組むクラスもあり、掲示したり、発表をしたりして相手に伝えていた。	A	・「コミ出しをしている」と手紙をもらって、自分から声をかけてくれるなど、人を思いやる豊かな心が育っていると思います。 ・先生がとても良い雰囲気なクラスづくりをしてくれていることで、お互いのよさを認め合っていると。	心づくり部会
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめの早期発見、早期対応について組織的対応ができていると回答した教師80%以上。	・気になる児童の様子やいじめの対応について、事例研修等を含めた研修や会議を毎学期行い、いじめに対する職員の意識や組織力を高める。	B	・毎週の連絡会で生徒指導担当を中心に気になる児童の様子などについて共通理解をし、どのような対応をしていけば良いのかを検討している。 ・毎月、いじめに関するアンケートをとり、管理職や関係学年で情報共有することでいじめの未然防止に努めている。	A	・全ての職員がいじめの早期対応について組織的対応ができていると回答していた。 ・問題事案の対応にあたっては、同学年、管理職、生徒指導担当などと連携しながら対応を行っている。また、毎週の連絡会で情報共有を行い、対応を検討している。	B	・しっかりと子どもに向き合う時間を取って、一人一人の心のつながりを大切にしていってほしい。 ・友だち同士で何でも話し合えるようになると、安心して学校生活を送れると思う。	心づくり部会
●健康・体づくり	●児童生徒が目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「目標をもって学校生活を送っている」と回答した児童生徒80%以上	・行事や体験活動において、活動への見直しをもたせたり、キャリアパスポート等を用いて学びの振り返りを行わせたりする。 ・児童生徒の、資質・能力を育む授業づくりを行う。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童90%以上だった。 ・「目標をもって学校生活を送っている」と回答した児童85%以上だった。 ・キャリアパスポート等を用いて、学期の目標や運動会で頑張りたいことを考えさせることで、活動への見直しをもたせたりした。今後、振り返りさせる必要がある。 ・キャリア教育の一環として、ゲストティーチャーを招いての授業を行った。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した項目で85%以上の児童が肯定的な回答をしていた。 ・「目標をもって学校生活を送っている」と回答した児童が肯定的な回答をした。 ・行事や体験活動において、学んだことをスライドや模造紙でまとめたり、作文を書いたりして、学びの振り返りさせることができた。 ・学年によっては、総合的な学習などで将来の夢について考えたり、ゲストティーチャーをよんだらしてキャリア教育を行っていた。	B	・子どもの良いところを見つけて、誉めていくことで、その良さを更に伸ばしてあげられると思う。	心づくり部会
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒80%以上。 ●栄養のバランスが取れる食事がわかる児童80%以上。	・栄養教諭や養護教諭と連携し、望ましい食習慣と食の自己管理能力についての授業を発達段階に応じて行う。 ・食に関する関心を高めるために、献立等について給食委員会が毎日放送する。	B	・給食の時間に栄養教諭が巡回し、食育の指導を行っている。 ・給食委員会が毎日行っている献立についての放送や6月に行った人気給食ランキングは、食への関心を高めることにつながった。 ・6月の食育月間に合わせて行った、早寝・早起き・朝ごはんチェックでは、児童や保護者が食のことを考え、規則正しい生活習慣の形成に取り組むきっかけになった。	A	・栄養教諭の支援を受けて発達段階に応じた授業を行った。給食委員会が献立・栄養に関する放送を行った。健康に良い食事をしている」と肯定的な回答をした児童が91%。 ・「栄養のバランスが取れる食事がわかる」と肯定的な回答をした児童が87%と、食に関する関心が高まった。 ・給食週間に、給食センターの紹介をすることで、給食への理解を深めることができた。	A	・豆腐作りに参加したが、子ども達がとても楽しそうに作っている様子と、自分たちで作った豆腐を「おいしい。おいしい。」と食べていた様子が見られ、体験を通して食べ物に感謝する気持ちが育っていると感じた。	体づくり部会
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●運動習慣の改善や定着化 ●安全に関する資質・能力の育成	○授業以外で1日に30分間以上体を動かした児童の割合が75%以上。 ○ヘルメット所持点検・防犯ブザー所持点検において、児童の着用率及び所持率90%以上。	・体育委員会でスポーツ大会などを企画する。 ・学期ごとにアンケートを実施し、集計する。その都度呼び掛け等を行う。	A	・体育委員会でドッチビー大会を実施し、多くの児童が参加した。また、1日30分以上外で遊んでいる児童が80%を上回った。 ・1学期の点検において、防犯ブザーの所持率は93.1%、ヘルメットの着用率は91%で、いずれも目標の90%を上回った。今後も引き続き呼び掛け・指導を行っている。	A	・体育委員会でおにごっこ大会を企画し、多くの児童が楽しみながら体を動かすことができた。また、1日30分以上外で遊んでいる児童が70%を上回った。 ・3学期の点検において、防犯ブザーの所持率は87.8%、ヘルメットの着用率は92%だった。ヘルメットの着用率は1学期に比べ上がったが、防犯ブザーの着用率は下がった。各クラスで呼び掛け・指導を続けていく必要がある。加えて、防犯ブザーを持つ意識についても周知する必要がある。	B	・スマートフォンやパソコン等でゲームをしたり、学習塾に忙しかつたりする子どもが多い。もっと体を動かしたり、早寝早起きをしたりして、よい生活習慣を身につけて、健康な体をつくってほしい。 ・火災・地震・不審者対応などの避難訓練の内容や子ども達の様子をもっと知りたいと思う。	体づくり部会
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●月の時間外在校時間が45時間を越える職員の割合10%以内。	・定時退勤日を設定し守る。 ・行事や会議の精選・効率化、時間短縮を進める。 ・校務分掌の見直しを進め、職員の仕事分担の平準化を目指す。	B	・曜日ごとに、退勤目標時刻を提示した。しかし、大きな行事もあり、月の時間外勤務時間が45時間以上となる職員が10%未満の月は少ない状況である。今後も、退勤時刻を意識した働き方の啓発を図っていく。 ・連絡事項は、掲示板の活用や文書の回覧等を行うことで短時間で共通理解ができている。	B	・時間外勤務時間が45時間以上となる職員が10%未満の月は、年間を通して少ない状況であった。しかし、割合の平均を比較すると前期(4-10月)は22.7%、後期(11-2月)は15.4%であった。目標達成には至らなかったが、改善傾向が見られた。今年度の反省を生かしながら、更なる業務の効率化を図ってきたい。	B	・スクールサポートスタッフ等のサポートがあれば先生方の負担軽減につながると思う。 ・先生方が本当の仕事に専念することができるように、事務処理等は人員を増やして対応すべきだと思います。	管理職
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○毎学期、特別支援教育に関する研修会やケース会議等を実施する。 ○特別支援教育に関する啓発授業を含め、障害者理解やUD教育を意識した授業をした学級90%以上。	・特別支援教育に関する研修会やケース会議を通して、教員の専門性の向上を目指す。 ・学活や道徳の時間の中で、障害者理解やUD教育を行い、児童相互理解を進める。	A	・年度初めや夏休みに特別支援学級担任向けの研修や職員全体に向けての研修を行うことができた。必要に応じて、ケース会議も持っている。 ・特別支援教育に関する啓発授業を、特別支援学級担任が関わっている交流学級で行い、児童がお互いを理解し、安心して過ごせる雰囲気作りを目指している。	A	・全職員対象や一部職員対象の研修を年間11回行うことができた。必要に応じて、ケース会議を行うこと、外部からの専門家も含めた支援会議を行うことで、教員の意識も高まった。 ・特別支援教育に関する啓発授業を、交流学級の全クラスで行ったり、通常学級に在籍する手が不自由な児童の理解を、他学年に広める取り組みをしたりするなど、児童理解を進めることができた。	A	・子ども達一人一人に寄り添い、しっかりと取り組まれていると思います。子どものいいところを誉めて、「伸びしろ」を伸ばしていってほしいと思っています。 ・田代小学校には、特別支援学級が多いが、子ども達同士の関わりはとてもよいと思う。子ども達なりに理解し合えるように、これからも優しい心を育てていってほしい。	心づくり部会

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率85%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間1回以上公開した学級率85%以上	・授業参観日における教科「日本語」の授業を全学年で公開する。 ・学級だより等を通じて教科「日本語」に関する情報を公開する。	B	・半数以上の学年が授業参観で、日本語の公開授業を行った。未公開の学年も、今後実施する予定である。 ・学級便りなどで、日本語に関する情報を公開するように、職員に呼びかけている。	A	・授業参観日における教科「日本語」の授業を85%の学級で公開した。 ・教科「日本語」に係る情報を、年間1回以上保護者などに公開した教員は85%だった。	B	・教科「日本語」の授業を公開していることは、とてもよいと思うのでこれからも続けてほしい。 ・「なぜ、どうして、教科「日本語」をするようになったのか」と聞いていただき、本来の姿を目指して欲しい。	
○開かれた学校づくり	・学校運営協議会の取組の推進 ・人と人を結ぶ「挨拶」の推進	・学校運営協議会の取組や学校の様子を毎月2〜3回、学校HPで発信する。 ・児童アンケートで「挨拶を積極的に行っていますか」の質問で80%以上の児童が肯定的な回答をする。	・学校運営協議会での取組を充実させ、多くの地域の教育力を学校教育へ生かす。 ・開校150年記念事業の取組を通してさらに地域社会との連携を深める。 ・道徳や特別活動を中心に「挨拶」を課題にした授業に取り組む。	B	・「挨拶を積極的に行っていますか」の質問で85%以上の児童が肯定的な回答をしている。しかし、地域の方からは「進んで挨拶してほしい」という声も聞かれるため、引き続き道徳や特別活動等でも取り扱い、啓発していく。 ・開校150年記念事業を通して、児童だけでなく地域の方や卒業生等、多の方との連携を深めている。記念式典に向けた準備も計画的に進めることができた。	B	・学校運営協議会の取り組みや開校150年記念事業の取り組みを学校便りやHPで発信した。また、授業参観や「開かれた学校づくり」の取組も推進した。 ・「開かれた学校づくり」の取組も推進した。 ・「挨拶を積極的に行っていますか」の項目で85%以上の児童が肯定的な回答をしていた。地域でも進んで挨拶ができる児童を育てていきたい。	B	・歴史ある田代に住んでいることを誇りに思ってもらえるよう、これからも地域との交流を大切にしていきたい。 ・学校運営協議会での話し合いは充実していると思う。更なる意見交流の場となるよう今後も協力していきたい。 ・授業参観すると笑顔で迎えてくれ、子ども達と挨拶でつながっていると思います。 ・登下校時の挨拶については、まだまだできていないと感じることも多いので頑張りたい。	管理職 心づくり部会

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価 次年度への展望	・校内研究では、全職員が個人テーマを設定して取り組んだことで、児童の実態に合わせて課題を設定し、教師自身が身に付けたい力に向けて研鑽することができた。次年度も、教師の主体的な取り組みが児童にとって最適な学びとなるように、引き続き研究を推進していきたい。 ・「心の教育」や「特別支援教育」の充実により、一人一人に寄り添うための細やかな支援に向けた工夫や改善を行うことができた。今後も児童が安心して過ごせる環境を整えるために全職員で共通理解ながら取り組んでいく。 ・業務の改善については、成績処理期間に児童の下校を早めて放課後の時間を確保したり、定時退勤日を明示したりするなど様々な手立てを取りながら進めてきたが、十分な成果は出していない。次年度も引き続き、手立てを模索していきたい。 ・「開かれた学校づくり」に力を入れている評価がBであるが、開校150年の記念事業やコミュニティスクール活動など学校運営協議会やまちづくり推進センターと連携して全学年で充実した取り組みを行うことができた。保護者や地域の方に広く知ってもらうために、今後は啓発活動にも力を入れていく。挨拶については、地域の方から肯定的な意見も聞かれるようになってきており、徐々に改善されてきている。次年度も引き続き取り組みを強化していきたい。
-------------------	--